

「この人 82」

岡野 満 62歳 富山県

編集部 俳句を始められたきっかけは？

岡 野 俳句は、二十代に僅かに学んだことがあり、いずれゆっくり楽しみたいと思っておりました。五十八歳頃より始めましたが、所謂、花鳥諷詠は、小難しい気がしますし、画一的な表現になりがちです。その点、滑稽俳句は変化が楽しめると思いました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

岡 野 五七五のステージで、季語を手にして自在に踊り、唄えることですね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

岡 野 ある意味で川柳的なもの。心の機微を敢えて客観的に捉えて、思わずなるほどと思ったり、笑いを誘うものです。また、滑稽は裏からみると悲哀でもあり、真実を語っていますね。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

岡 野 始めてからまだ日が浅いので、何とも言えませんが、喜怒哀楽の出来事を多面的に、且つ、全体的にみる目が養われるのではないかと思います。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

岡 野 技巧的には、「当然と思えることを、もし、そうでなかったら」と思いを廻らすことも一つの方法。机上で無理に「滑稽」を創り出さず、或る日、或る時の思いをベースに推敲することです。

【代表句】

たればの話が尽きぬ年忘れ  
碁敵に勝ってスキップ春の道  
縁談にやきもきとする内裏雛  
目出度さの余韻を残し五月病  
やれ落ち葉誰の噂ぞかさこそと